

6 . 重点整備地区の選定

利用者の立場から鉄道駅周辺地区について、現況及び都市特性、地域特性を把握し、重点整備地区を選定します。

6 1 . 地区別の現況と整備事業等

本市域の鉄道駅周辺地区について、おおむね 1km 圏内で次の 5 地区（6 駅）に分けて、その現況と整備事業等の有無や特性、問題点等を把握します。

図表 6-1-1 地区別の現況と整備事業等

地区名	現況特性・問題点など	整備事業等
近鉄喜志駅 周辺地区	喜志駅周辺は、住宅と店舗、事務所などが混在する市街地と、旧国道 170 号以東の旧来からの市街地、西部丘陵地の戸建住宅を主とする新市街地、及び市街化調整区域のまとまった農地から形成されている。 （主）喜志太子線の踏切部の歩道設置検討、（都）富田林太子線の延伸等が課題。	喜志(東)駅前広場が 57.5%、 (西)駅前広場が 51.8% 整備済。
近鉄富田林 駅、富田林西 口駅周辺地区	富田林駅周辺は、寺内町を中心とする中心市街地。富田林西口駅周辺は、市役所や学校などの行政・教育施設などが集積している。重要伝統的建造物群保存地区である寺内町では歴史的町並みを保存・修景し、既成市街地では道路の改善などによる住環境の維持・保全などが課題。	富田林(北)駅前広場が整備完了。 (南)駅前広場が約 30% 整備済だが、整備計画中。
近鉄川西駅周 辺地区	川西駅周辺は、旧集落を中心とした市街地が見られ、すばるホールや総合福祉会館などの市民利用施設が立地している。広域幹線道路である国道 170 号、309 号が通過する。都市拠点（副核）としての形成、国道 309 号交差点の改良が課題。	-
近鉄滝谷 不動駅 周辺地区	滝谷不動駅周辺も、旧集落を中心とした市街地が見られ、毎月 28 日は「お不動さん」で親しまれる縁日で、にぎわいを見せている。 府道森屋狭山線の歩道設置などが課題。	-
南海滝谷駅 周辺地区	滝谷駅周辺は、住宅と店舗、事務所などが混在する市街地と、旧集落を中心とした市街地が見られる。 住民などのための商業集積と、既成市街地での道路や住環境の維持、保全などが課題。	-

6 2 . 各駅のバリアフリー化状況

先の 5 地区について現地調査を行い、各駅のバリアフリー化状況を確認しました。

参考までに市域外駅であっても駅勢圏を本市域に含んでいる駅も追加し、合計 9 駅について現地調査等を行いました。調査結果を下記に示します。

(1) 段差、階段、エレベーター等

道路から駅への出入口に段差のある駅が 9 駅中 6 駅あり、6 駅全てにスロープ（緩い坂道）等が設置されています。

ホームと改札口やホームを繋ぐ通路の階層が分かれている（例えば、ホームが地上で改札口が地下など）駅が 9 駅中 5 駅あり、この内、E V（エレベーター）の設置済みが 1 駅、E S（エスカレーター）の設置済みが 2 駅あります。

また、上記 5 駅以外の 4 駅では、ホームと改札口に約 1 m の段差があり、4 駅全てにスロープが設置されていますが、急勾配のため車椅子使用者が自分一人では上り下りが難しい状況となっています。

階段は、9 駅中 5 駅にありますが、5 駅全てに手すりが設置済みで、段鼻の突き出しもありません。

(2) 改札口、券売機等

9 駅全ての改札口には、車椅子用自動改札機（幅 90cm 以上）が設置され、券売機にも点字表示と若干の音声補助機能が付いています。しかし、券売機の車椅子対応（カウンター下部奥行きが約 35cm 程度）は、9 駅中 1 駅にしかありません。

(3) 誘導ブロック、運行情報等

視覚障害者誘導用ブロックは、ホーム、通路ともに 9 駅全てに設置されていますが、ブロックが繋がっていない部分が、数カ所あります。

ホーム上の運行情報は、9 駅中 6 駅に音声情報が流れ、9 駅中 2 駅に文字情報が表示されています。

(4) その他のバリアフリー対応

触知板、チャイムは、9 駅全てに設置されておらず、点字案内板、おむつ交換シート、授乳場所、車椅子用公衆電話は、南海金剛駅を除く 8 駅全てに設置されていません。

また、障害者対応トイレは、9 駅中 3 駅にしか設置されていません。

(5) 駅前広場等

駅前広場は、9 駅中 3 駅（近鉄喜志駅、近鉄富田林駅、南海金剛駅）にあり、3 駅全てに視覚障害者誘導用ブロック、バス停段差のスロープ、ベンチ・上屋が設置されています。

バス停後方の有効幅員については、近鉄富田林駅（北口）、南海金剛駅（東口西口）が 4m 以上確保できていますが、近鉄喜志駅（東口西口）、近鉄富田林駅（南口）は、1m 以下しか確保できていません。

また、3 駅全てにおいて、点字案内板、触知板、バス運行情報の音声・文字案内が設置されていません。

図表6-2-1 鉄道各駅のバリアフリー化状況一覧表

路線名		近 鉄 長 野 線				
駅名	喜志駅	富田林駅	富田林西口駅	川西駅	滝谷不動駅	汐ノ宮駅
駅舎の構造	地上駅	地上駅	地上駅	高架駅	地上駅	地上駅
	地下駅舎	地上駅舎	地上駅舎	高架下駅舎	地上駅舎	地上駅舎
	相対式2面2線	相対式2面2線	単式1面1線	単式1面1線	相対式2面2線	単式1面1線
	地下通路有	地下通路有	-	-	踏切でホーム接続	-
鉄道駅乗降客数(H17年) (人/日)	19,009	16,714	6,215	4,211	7,379	2,443
乗降客5,000人以上の有無				×		×
富田林市内駅						×河内長野市
出入口	段差の有無	上 下	上 × 下		上	
	スロープ	上 下	上 不要 下		急勾配	
エレベーター	道路～改札	上 × 下 ×	上 × 下 ×	不要	×	上下共 不要
	改札～ホーム	上 × 下 ×	上 × 下 ×	不要	×	上下共 不要
エスカレーター	道路～改札	上 × 下 ×	上 × 下 ×	×	×	上 ×
	改札～ホーム	上 × 下 ×	上 × 下 ×	×スロープ有急		上下共×スロープ有急
階段	手すり有り					×
	段鼻無し			階段無し		階段無し
車椅子用改札口(90cm以上)						
券売機	車椅子対応	×	×	×	×	×
	点字表示	音声補助付	音声補助付	音声補助付	音声補助付	音声補助付
視覚障害者誘導用ブロック	ホーム 通路	ホーム 通路	ホーム 通路	ホーム 通路	ホーム 通路	ホーム 通路
点字案内板、触知板	点字 × 触知 ×	点字 × 触知 ×	点字 × 触知 ×	点字 × 触知 ×	点字 × 触知 ×	点字 × 触知 ×
チャイム	×	×	×	×	×	×
ホーム上の音声情報	電車到着案内のみ	行き先、連絡案内有	×	行き先案内有	×	×
運行情報	文字情報	×	×	×	×	×
ホーム上の休憩施設	待合室					
	ベンチ					
障害者対応型トイレ	× 上りのみトイレ有	× 上下トイレ有		× 改札のみトイレ有	× 上りのみトイレ有	× トイレ有
おむつ交換シート	×	×	×	×	×	×
授乳場所(トイレ以外)	×	×	×	×	×	×
車椅子用公衆電話	×	×	×	×	×	×
盲導犬同伴						
駅広の誘導点字ブロック						
駅広のバス停スロープ		段差無いため不要				
バス停のベンチ・上屋の有無	ベンチ 上屋	ベンチ 上屋				
バス停後方有効幅員	× 1m程度	北口 4m, 南口 ×				
駅広の点字案内板、触知板	×	×				
バス運行情報の音声文字案内	音声 × 文字 ×	音声 × 文字 ×				
路線名		南海高野線				
駅名	滝谷駅	金剛駅	大阪狭山市駅			
駅舎の構造	地上駅	橋上駅	地上駅			
	地上駅舎	橋上駅舎	地上駅舎			
	相対式2面2線	島式2面4線	相対式2面2線			
	高架通路有	コンコース有	ホームは接続せず改札2箇所			
鉄道駅乗降客数(H17年) (人/日)	5,547	38,033	8,777			
乗降客5,000人以上の有無						
富田林市内駅		×大阪狭山市	×大阪狭山市			
出入口	段差の有無	下 × 改札下りのみ	上 × 下 ×	上 × 下 ×		
	スロープ	下 不要	上下共 不要	上下共 不要		
エレベーター	道路～改札	下 不要	上 下	上下共 不要		
	改札～ホーム	下 不要	上 下	上下共 不要		
エスカレーター	道路～改札	上 × 下 ×	上 下	上 × 下 ×		
	改札～ホーム	上下共 × スロープ有急	上 × 下 ×	上 × スロープ急、下 × スロープ緩		
階段	手すり有り					
	段鼻無し			階段無し		
車椅子用改札口(90cm以上)						
券売機	車椅子対応		×	×		
	点字表示	音声補助付	音声補助付	音声補助付		
視覚障害者誘導用ブロック	ホーム 通路	ホーム 通路	ホーム 通路			
点字案内板、触知板	点字 × 触知 ×	点字(音声付) 触知 ×	点字 × 触知 ×			
チャイム	×	×	×			
ホーム上の音声情報	電車到着案内のみ	種類、次駅名、行き先案内有	電車到着案内のみ			
運行情報	文字情報	×	×			
ホーム上の休憩施設	待合室	×				
	ベンチ					
障害者対応型トイレ	× 下りのみトイレ有	コンコースのみトイレ有	上 × 下			
おむつ交換シート	×	障害便 一般	×			
授乳場所(トイレ以外)	×	ホームに有	×			
車椅子用公衆電話	×		×			
盲導犬同伴						
駅広の誘導点字ブロック						
駅広のバス停スロープ						
バス停のベンチ・上屋の有無		ベンチ 上屋				
バス停後方有効幅員		東西とも4m有				
駅広の点字案内板、触知板		×				
バス運行情報の音声文字案内		音声 × 文字 ×				

バス停後方有効幅員基準については、歩行者の交通量が多い歩道:3.5m、その他の歩道:2.0m、歩行者の交通量が多い自転車歩行者道:4.0m、その他の自転車歩行者道:3.0mが最小値








図表6-2-2 鉄道各駅のバリアフリー化状況写真(1)

近 鉄 長 野 線			
喜 志 駅		富 田 林 駅	
<p>・車椅子使用者が電車に乗る場合、駅外のスロープ出入口でインターホンにより駅員に知らせた後、駅員に介助してもらいホームへ入る。また、ホームから外へ出たい場合も同様にホーム端のスロープ出入口でインターホンにより駅員に知らせる。</p>		<p>・ホームと通路の点字ブロックが繋がっていない。 ・地下通路へのスロープが急で一人で移動できない。 ・下りのホーム横トイレに段差あり。上りにもトイレがあるが段差はない。</p>	
特 徴	地下駅舎の券売機	特 徴	券売機
			
ホーム	スロープ出入口(急勾配)	ホーム	下りホームトイレの段差
			
地下通路への出入口	スロープ出入口のインターホン	点字ブロックが繋がっていない	駅南口広場の段差
			
地下通路への階段	駅西口広場のバス停	地下通路へのスロープ(急勾配)	駅北口広場のバス停
近 鉄 長 野 線			
富 田 林 西 口 駅		川 西 駅	
<p>・ホームと改札を繋ぐスロープは、急勾配であり、一人で移動できないため、駅員が介助する必要がある。</p>		<p>・トイレは1階の改札にのみある。 ・車椅子使用者対応は、階段で駅員2人がチェアメイトという移動機械を使う場合とエスカレーターで駅員3人が対応する場合がある。土日に2人使用する程度。チェアメイトは、階段の下を向いて座るため怖い方がエスカレーターで対応。製品名: ステアステップ。 ・点字ブロックが繋がっていない。</p>	
特 徴	券売機	特 徴	1階から見たエスカレーター
			
ホーム	改札口	ホーム	点字ブロックが繋がっていない
			
ホームから改札へのスロープ	道路からの出入口段差	ホームから1階への階段	券売機
			
待合室		ホームから見たエスカレーター	道路からの出入口段差

図表6-2-3 鉄道各駅のバリアフリー化状況写真(2)

近 鉄 長 野 線			
滝 谷 不 動 駅		汐 ノ 宮 駅	
<p>・踏切でホームをつないでいる。 ・車椅子使用者は週に2、3人程度。 ・ホームと改札を繋ぐスロープは、急勾配であり、一人では移動できないため、駅員が介助する必要がある。</p>		<p>・ホームと改札を繋ぐスロープは、急勾配であり、一人では移動できないため、駅員が介助する必要がある。</p>	
特 徴	ホームを繋ぐ踏切	特 徴	改札口
ホーム	券売機	ホーム	道路からの出入口段差
ホームから踏切へのスロープ1	改札口	ホームから改札へのスロープ	
ホームから踏切へのスロープ2	道路からの出入口段差	券売機	
南 海 高 野 線			
滝 谷 駅		金 剛 駅	
<p>・下りにしか改札がなく、上りとの接続は階段のみ。 ・車椅子使用者が上り電車に乗りた場合、下り改札からホームに入り(段差なし)、事前に駅に連絡しておき、下り電車に乗って段差のない別の駅で駅員の介助で上り電車に乗り換えている。</p>		<p>・音声付き点字案内板や、ホーム内の授乳場所、トイレでのおむつ交換シート、エレベーター・エスカレーターや車椅子対応公衆電話の設置など、整備したことがうかがえる。触知案内板がない程度。</p>	
特 徴	ホームから改札へのスロープ	特 徴	ホームからコンコースへのエレベーター
ホーム	券売機	ホーム	ホーム内の授乳場所
ホームから高架通路への階段	改札口	運行案内板	点字案内板(音声付)
ホームを繋ぐ高架通路	道路からの出入口	ホームからコンコースへの階段	駅西口広場のバス停

図表6-2-4 鉄道各駅のバリアフリー化状況写真(3)

南 海 高 野 線			
大 阪 狭 山 市 駅			
<p>・上りホームのスロープは急勾配であり、一人では移動できない。下りホームのスロープはそれに比べて緩くなっている。 ・下り便所のみが車椅子対応便所。 ・盲導犬同伴は、証明のある方のみ通れる(全駅共通)。</p>			
特 徴	券売機		
			
ホーム	改札口		
			
ホームから改札へのスロープ1	車椅子対応便所(下りホームのみ)		
			
ホームから改札へのスロープ2	道路からの出入口		

6 3 . 重点整備地区の選定

(1) 重点整備地区選定の考え方

バリアフリー新法では、「重点整備地区」を概ね下記のように定義しています。

次に掲げる要件に該当する地区をいう。

生活関連施設（高齢者、障害者等が日常生活又は社会生活において利用する旅客施設、官公庁施設、福祉施設その他の施設をいう。以下同じ。）の所在地を含み、かつ、生活関連施設相互間の移動が通常徒歩で行われる地区であること

生活関連施設及び生活関連経路（生活関連施設相互間の経路をいう。以下同じ。）を構成する一般交通用施設（道路、駅前広場、通路その他の一般交通の用に供する施設をいう。以下同じ。）について移動等円滑化のための事業が実施されることが特に必要であると認められる地区であること

当該地区において移動等円滑化のための事業を重点的かつ一体的に実施することが、総合的な都市機能の増進を図る上で有効かつ適切であると認められる地区であること

「移動等円滑化の促進に関する基本方針」（以下「基本方針」という）では、「生活関連施設」に該当する施設を次のように定義しています。

相当数の高齢者、障害者等が利用する旅客施設、官公庁施設、福祉施設、病院、文化施設、商業施設、学校等多岐にわたる施設が想定されるが、具体的にどの施設を含めるかは施設の利用の状況等地域の実情を勘案して選定することが必要である

「生活関連施設相互間の移動が通常徒歩で行われる地区」を次のように定義しています。

生活関連施設が徒歩圏内に集積している

地区全体の面積がおおむね 400ha 未満

生活関連施設のうち特定旅客施設又は官公庁施設、福祉施設等の特別特定建築物（不特定かつ多数の者が利用し、又は主として高齢者、障害者等が利用する特定建築物であって、移動等円滑化が特に必要な建築物）に該当するものがおおむね 3 以上所在

これらの施設を利用する相当数の高齢者、障害者等により、これら施設相互間の移動が徒歩で行われると見込まれることが必要

また、「基本方針」では、バリアフリー化の目標として、「1日当たりの平均的な利用者数が5,000人以上である鉄道駅及び軌道停留場については、平成22年までに、原則としてすべての鉄道駅及び軌道停留場について、エレベーター又はエスカレーターを高低差5メートル以上の鉄道駅及び軌道停留場に設置することを始めとした段差の解消、ホームドア、可動式ホーム柵、点状ブロックその他の視覚障害者の転落を防止するための設備の整備、視覚障害者誘導用ブロックの整備、便所がある場合には障害者対応型便所の設置等の移動等円滑化を実施する。」と明記しています。

以上のことから、「本市における重点整備地区」としては、

- | | |
|------|--|
| 条件 1 | 1日の平均利用客数が5,000人以上の全ての旅客施設（鉄道駅） |
| 条件 2 | 官公庁施設、福祉施設などの公共公益施設等の立地が顕著である |
| 条件 3 | 駅前広場整備事業などの各種事業との連携により整備効果が大きいと考えられること |

の3条件を考慮して選定を行うものとします。

(2) 重点整備地区の選定

1) 1日の平均利用客数が5,000人以上の全ての旅客施設(鉄道駅)

本市内の鉄道駅のうち、重点整備地区の対象となる駅(乗降客数が5,000人以上の駅)は、図表 6-3-1 より、近鉄長野線では、喜志駅、富田林駅、富田林西口駅、滝谷不動駅の4駅、南海高野線では、滝谷駅の1駅、以上合計5駅です。

図表 6-3-1 富田林市内鉄道駅乗降客数(平成17年) (人)

鉄 道 駅 名					
喜志駅	富田林駅	富田林西口駅	川西駅	滝谷不動駅	滝谷駅
19,009	16,714	6,215	4,211	7,379	5,547

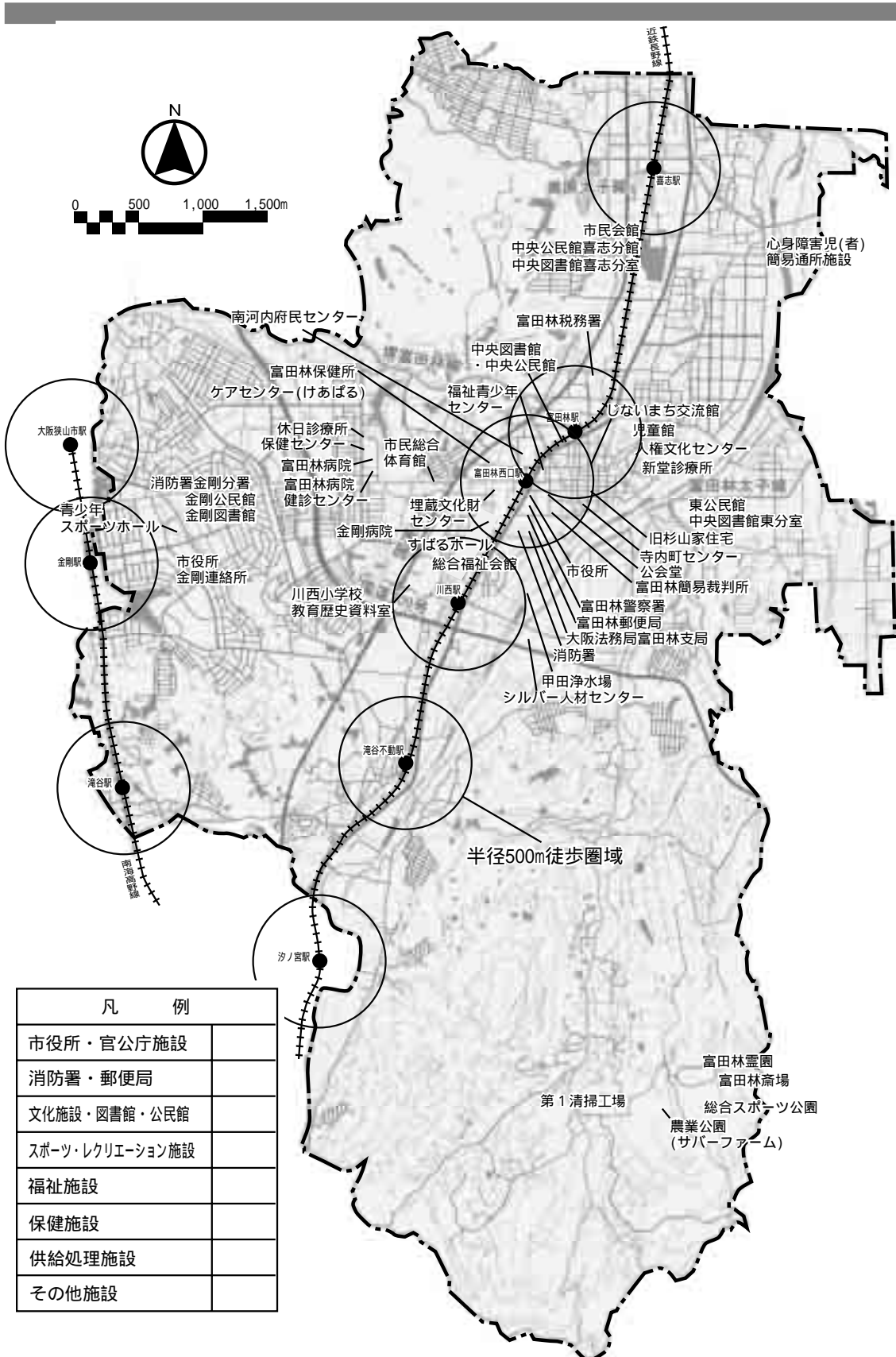
資料：近畿日本鉄道及び南海電気鉄道に確認

2) 公共公益施設の立地状況

各駅を中心として、半径約500mの徒歩圏域付近における主な公共公益施設の立地状況を整理すると、下表のように、近鉄富田林駅と近鉄富田林西口駅の周辺に、市役所、富田林税務署、南河内府民センター、富田林保健所、中央図書館・中央公民館、富田林郵便局など、住民が日常的に利用する様々な公共公益施設が集積しています(図表 6-3-2、図表 6-3-3 を参照)。

図表 6-3-2 各駅の半径約500m 徒歩圏域付近における公共公益施設立地状況(重複あり)

鉄道駅名	公共公益施設名	箇所数
喜志駅	市民会館、中央公民館喜志分館、中央図書館喜志分室	3
富田林駅	南河内府民センター、富田林税務署、中央図書館・中央公民館、児童館、人権文化センター、新堂診療所、公会堂、福祉青少年センター、寺内町センター、旧杉山家住宅、じないまち交流館	11
富田林西口駅	市役所、大阪法務局富田林支局、富田林簡易裁判所、消防署、富田林郵便局、富田林警察署、南河内府民センター、富田林保健所、中央図書館・中央公民館、公会堂、福祉青少年センター、寺内町センター、旧杉山家住宅、じないまち交流館	14
川西駅	総合福社会館、すばるホール、川西小学校教育歴史資料室、甲田浄水場、シルバー人材センター	5
滝谷不動駅	特になし	0
滝谷駅	特になし	0



図表 6-3-3 公共公益施設位置図

3) 各種事業実施の状況

富田林駅南口広場において、駅前広場整備事業に着手している。

4) 結論

以上、1)～3)の検討結果より、6-3.(1)で示した重点整備地区選定の考え方に該当する地区は、駅前広場整備事業に着手している富田林駅周辺地区及び、市役所などの公共公益施設の立地状況が顕著で市の中心機能を担っている富田林西口駅周辺地区になります。

また、徒歩圏域としては、概ね 500m～1km とされており、富田林駅と富田林西口駅が隣接していることから、本市では、2地区を含めた約 150ha を重点整備地区として設定するものとします。

以上より、本市における「重点整備地区」は、

近鉄富田林駅・富田林西口駅周辺地区

とします。